Ⅱ　鹿児島県の円筒土器

弥　栄　久　志

(1) 研　究　史

九州の縄文時代の早前期としては押型文土器・轟式土器・曽畑式土器・円筒貝殻文土器等の諸文化圏がある。南九州においても轟式の祖型となった阿多式土器、黒川・片野両洞穴の轟・曽畑式土器。日勝山遺跡の曽畑式土器、手向山遺跡の手向山式土器と多くの文化圏があることがわかる。また、南島においても種子島の苦浜式土器（轟系）・曽畑式土器（本城）等、広く分布していることがわかる。そして、九州南部には貝殻文を有する円筒土器の文化が存在する。石坂式土器・吉田式土器・前平式土器・塞ノ神式土器がこれにあたる。

円筒貝殻文土器の発見は塞ノ神式の発表が最初にあたる。木村幹夫氏の発見があり、昭和11年寺師見国氏の「南九州の縄文土器」[1]として塞ノ神式土器をまとめている。その後宮崎県の跡江貝塚や大貫貝塚[2]、そして熊本県の轟貝塚[3]等の出土をみ、大分・長崎県にも出土がみられ、九州全域の文化と考えられるようになった。また県内においても知覧町石坂上遺跡[4]、志布志町山ノ上遺跡[5]、国分市平栫貝塚[6]、最近になり発見された栗野町花ノ木遺跡等[7]がある。

昭和47年河口貞徳氏が平栫貝塚を中心に塞ノ神式土器の編年、分類を行なっている。大別して、撚糸文をもつAタイプ、貝殻文をもつBタイプとし、それぞれの組み合わせで4類に分けている。そして、前段階として平栫式の設定をおこない、塞ノ神式土器の祖型は平栫貝塚の調査で、精細な考察[8]を加えている。

昭和28年鹿児島郡吉田村（現在吉田町）大原南中学校遺跡を河口貞徳氏は調査して吉田式土器を設定している[9]。本遺跡の発見は生徒が校庭拡張中に発見し、昭和27年調査し、その翌年に報告[10]されたものである。時期は前期に位置され、石坂式との近縁関係が強いとされている[11]。このあと同形式の遺跡調査は少なく最近花の木遺跡での出土等2、3例をみるにすぎない。

石坂式土器の設定は昭和28年石坂上遺跡を河口氏が調査し、口縁部が外反し肥厚した貝殻円筒土器を標式としている。その後表面採集では多くみられるが発掘調査では2、3例しかない。志布志町の山ノ上遺跡[12]では塞ノ神式土器と近い関係で出土している。

前平式土器の設定は鹿児島市雀ケ宮前平遺跡において出土した円筒土器を標式としている。河口氏は昭和29年川辺郡知覧町永野遺跡を調査し、前平式の分類編年を行なっている。前平式土器も吉田式土器・石坂式土器同様に表採資料が多く、発掘調査資料は少ない。石坂式を早期、吉田式・塞ノ神式土器を前期として編年されている。

円筒貝殻文土器の全体的な編年は昭和47年「鹿児島考古」6号に塞ノ神式と題して河口貞徳氏が発表している。早期末に石坂式・前期に吉田式土器・前平式土器・平栫式土器・塞ノ神式土器と円筒土器の編年[13]を精察していることは注目される。

以上のように南九州の円筒土器は昭和10年代からの研究が行なわれ現在にいたっておりその先覚的行為を寺師見国、河口貞徳両先生らの調査研究によって学会に提起された。

(2) 円筒貝殻文土器

1) 石坂式土器

石坂式土器は昭和28年に川辺郡知覧町石坂上遺跡の下層から出土した土器を標式としたものである。口縁部は厚くふくらみをもち外反する。胴部は円筒状をなし底部は平底となる。底部には尖底をもつものもある。施文としては口縁部に刻目文、口縁外面に貝殻腹縁による羽状、斜状の連続刺突文、胴部は綾杉状の浅い条痕、底部は横走の条痕を施している。[13] これらが基本となり石坂式土器となっている。時期的には早期末にあたり吉田式土器の祖形とされている。

図版Ⅲの上段枕崎市山ノ尻遺跡の土器である。口縁部の外反、肥厚は少ないが若干の要素がみられる。この土器には2つの耳状貼付けがあり、口唇部に刻目文・口縁部に貝殻腹縁による刺突連続文を施している。胴部は綾杉状の貝殻条痕を施文している。全体的に筒状であるがやや外ふくらみがみられる。底部ではくびれがあり安定性をよくし底部縁の広がりがあり、この底部は他にみらない。同市茅野遺跡（Ⅲの上段右）の石坂式も同じタイプと考えられ。石坂上遺跡採集土器は（図1－3）口縁部の外反肥厚があり標式遺跡採集である。すでに詳しく述べられているが四つの山形波状口縁をなし、内面はなで調整がみられる。

志布志町帖山ノ上遺跡出土土器は口縁部の肥厚、外反、口唇口縁部の施文、器形などからみても石坂式土器の要素が強い(図1－8)。この土器の特徴は貝殻文による器面全体の施文である。この土器の同類は志布志町大川内平野遺跡、同田ノ浦倉野遺跡等などでも採集されている。(図1－7)は平原出土で底部で横行の調整をもち斜状に刺突貝殻文を施している。また胴部であるが綾杉状に刺突文を施した大越遺跡出土例がある。（図1－5）

石坂式土器は器形的に2つのタイプ、施文上からも2つのタイプが考えられる。前者は口縁部の外反するもの、やゝ外反するものに分ける。そして外反のものには口縁部肥厚が目立つ。

施文上の特徴としては元来綾杉状の地文をもつ条痕タイプと刺突の地文をもつ刺突タイプとに分けられる。

条痕タイプは石坂上遺跡出土や枕崎市の茅野－里塚・山ノ尻遺跡の土器がこれにあたる。口縁部と胴部と文様が異なり、口縁部の文様に羽状・斜状等の多くの文様がある。

刺突タイプとしては志布志町の山ノ上遺跡出土の土器にみられ全体的に綾杉状・斜状に施す。このタイプの土器の出土は少ないが今後出土例が多くなると考えられる。

以上石坂式土器は細分できるが、今後の資料発見に期待される。

2) 吉田式土器

吉田式土器は鹿児島郡吉田町（旧吉田村）大原南中学校校庭より出土した土器を標式としている円筒形で平底を呈し、口縁部は平坦でやや外反し貝殻腹縁の刻目連続文を施している。

一部にはシイノミ状の圧痕をつけたものもある。頸部以下は貝殻腹縁を水平に刺突を断続的に加えた押し引き条痕を施している。円筒形の他に角筒形もみられる。器壁は薄く焼成も良い。内面はなで調整し、キメ細い調整痕がみられる。底部は刻目文が施されている。

図2の1は口縁外反・口縁外面の施文等から吉田式土器の要素がみられる。さらに図2の4の

土器も同様だが胴部の地文が横位の貝殻文がみられる。これは今までの設定にない要素と思われる。図2の2の霜出遺跡の土器は沈線ではなく深い貝殻押し引き文である3本が横位で下が若干右斜めの縦位の施文であり、器壁は厚く吉田式の薄いそれとは異なる。特徴から前平式に類似するが、器面の押し引き等から吉田式土器の範中にはいると思われる。図2の7は同じ霜出遺跡より採集された土器である。器壁の薄さ、文様からみても吉田式の範中にはいる。この特徴はくさび形の貼り付け文である。このくさび形の貼付け文は口縁器面全体に廻ると思われる。

図2の5は志布志町宮ノ前遺跡で出土した円筒土器である。同じく6、8は角筒土器であり6は口縁近い胴部、8は底部である。角筒は斜行の地文に貝殻腹縁の刺突文を施している。これは幅の狭い菱杉状の文様を呈す。この土器にはくさび状の貼り付け文も施すものと推理される。8は底部近いところの角筒の部分である。

吉田式土器は器壁の薄さ、口縁の外反、貝殻文調整、良好な焼成等が基本的な要素となり、施文に押し引き横位の条痕、角筒にみられる斜行条痕等構成でされている。

3) 前平式土器

前平式土器は鹿児島郡吉野町雀ケ宮前平遺跡で出土した土器を標式としている。[15] 円筒土器、角筒土器の2つの器形があり角筒土器の中には上半部が角筒で下半部は円形をなすものもある。角筒は四角で口縁が山形となる。底部は円筒形同様平底となる。

円筒土器は口唇部が尖るものと平になるものとがあり、口縁部には貝殻腹縁や篦等によって刻線文を縦ないし斜状に施している。胴部は貝殻の条痕が横ないし斜に走り底部は篦状のもので刻線文を施している。全体的に厚く粗雑な焼成をなし内側は篦状のもので削り仕上げの器面調整を行なっている。口唇部は丸みをもつもの、尖ったものがある。しかし一部には口唇部の平たく薄い土器もある。曽於郡志布志町鎌石橋遺跡の土器(図版Ⅳの上・図3－1)は小形であるが薄手の型である。口縁部の文様は上に篦状の施文具で刻線文を、下に貝殻腹縁による刺突連続文を施している。平担な口唇部をもち刻線文を施文し、内側はけずり仕上げの調整である。(図3－2、3、4、5)は志布志町の坂ノ上遺跡の土器である。口縁部の平坦、尖、丸味、段のあるものと多種であり、また貝殻腹縁の刺突のもの、篦状刺突の連続文の一段あるもの、二段あるものと施文に関しても多種にわたる。

川辺郡知覧町永野遺跡の前平式土器(図3－9)には貝殻文二段の施文があり、内側に段がついている。器壁は厚く、器面外側は浅い貝殻条痕があり、内側はけずり仕上げの調整を行なっている。

角筒土器(図3－10)は同じく永野遺跡採集であるが、四隅が山形になり口唇部に刻線をもち、口縁部は二段の貝殻腹縁刺突文をもつ。上は縦に連続文、下は横に2本の平行波状文である。胴部は斜条痕の地文で、菱形の刺突文を施すと思われる。内側はけずり仕上げ調整である。

(図3－10) aは角から見た図であり、bは一辺に対して横から見た図である。

(図3－11、12、13、)は上半部が角筒で下半部が円筒の型と考えられる。とくに11はそれがよくわかる形をしている。これらの施文は角筒の代表的な文様と思われる。10、11は平行沈線文である。

以上のように前平式土器は円筒・角筒と2タイプがある。そして器形は直行した円筒土器である。

4) 塞ノ神式土器

塞ノ神式土器は昭和7年木村幹夫氏が考古学雑誌に伊佐郡菱刈町市山字塞ノ神より出土する土器

を発表し、昭和29年寺師見国氏が「南九州の縄文土器」として塞ノ神式土器をまとめあげている。器形は口縁の開いた鉢形で頸部が「く」字形に屈曲していること、胴部が円筒形で平底になっていることを述べ、器面には口縁に刻目を施したものが多くこれにヘラ描きの平行線、爪形連点文、撚糸文、貝殻文等を器面全体に施す特徴をあげている。[16]

昭和47年河口貞徳氏は「鹿児島考古」6号に「塞ノ神式土器」と題し大別してA・Bと分け、さらにA式をa・b、B式をc・dと細別している。すなわちこれは文様が主体であり、A式は撚糸文系、B式は貝殻文系を指し、A式のaは撚糸文を沈線で囲まず、bは撚糸文を沈線で囲むことをあげている。そしてB式のcは区画内に貝殻腹縁の刺突文または箆描文を施し、dは区画がない文様を構成するものを基本として分類している。更に新たに平栫式土器を設定している。Ⅰ式は山形平行文を横位にならべ、文様は胴部のみに施している。Ⅱ式は口縁部がカマボコ形に肥厚し、羽状文、連点文、山形平行文を組み合せた文様をもつ土器である。しかし器形的には塞ノ神式と同様な要素をもつものと考えてよい。

図4の1は石坂上より出土した塞ノ神式で寺師氏の報告から抜粋した図である。これは河口氏の分類のA式aに2、7もA式のaにあたる。2の千草原遺跡の土器は4つの低い山形口縁である3、9はA式のb、5はB式のcに、10はB式のdにそれぞれ相当する。11、12は平栫式土器である。カマボコ状の肥厚した口縁部が特徴を示す。さらに口縁部の文様は沈線と連点文の構成をなす。頸部は突帯に連点文を施している。胴部は縄文・撚糸文を地文として、2ないし3本の平行沈線文を縦の波状文を施している。これらは国分市の平栫遺跡[17]より出土し標式土器となっている。時期的には塞ノ神式土器の前段階を示している。

以上の様に塞ノ神式、平栫式は多種に分類されているがともに口縁の開いた土器である。これらは南九州の円筒貝殻文土器の最終末期と考えられている。

5) その他の円筒土器

昭和51年に鹿児島県の報告で2つの遺跡より3類の円筒土器が報告されている。1つは姶良郡栗野町の花ノ木遺跡から全面貝殻条痕の土器（図2—9）と口縁部に2段の貝殻文を波状に施す土器（図2—11）で内側はなで調整である。もう1つは出水市牟田尻遺跡より出土した押型文の円筒土器（図2—10）である。小形ではあるが全面に山形押型文を施している。内側は箆削り調整で口縁部近くは薄手となっている。

(3) 円筒貝殻文土器の分布

石坂式土器の分布

石坂式土器の分布は知覧町石坂上を中心にその濃密な分布は、加世田、川辺、知覧を結んだ線の南部、南薩地帯に集中している。鹿児島市周辺では、市の北部一帯に4ケ所、志布志付近に2ケ所と、分布は局所に集中している。これまでのところ県の西北部を除いて鹿児島県の全域にわたって分布する傾向をしめしているが比較的県の南東部に密度が高い。

石坂式土器の分布をみる限ぎり、九州南端に発達した円筒土器で、縄文技法に対して貝殻文を施文する独自な特徴をもつ土器ということができる。

吉田式土器の分布

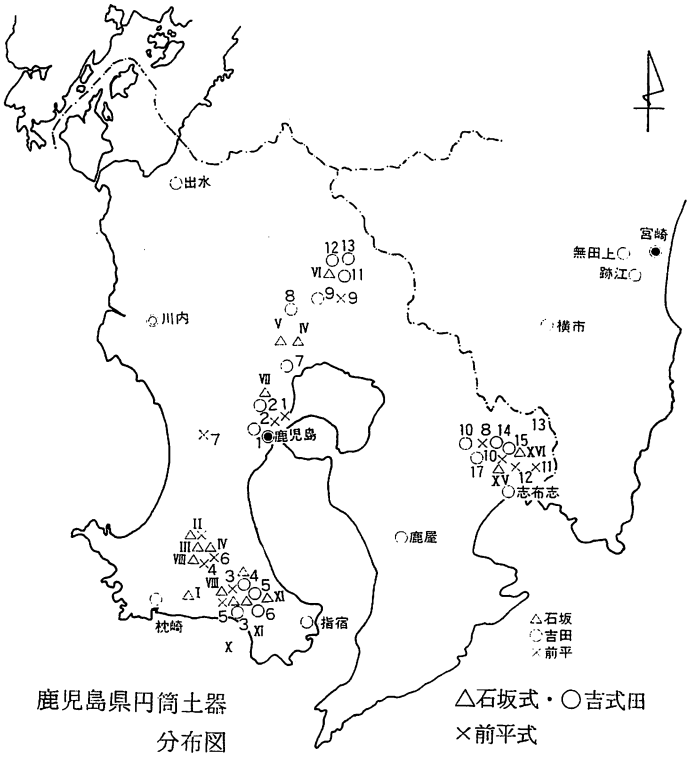
石坂式同様鹿児島県の西北部一帯には分布せず、加世田、知覧の線を結ぶ薩南一帯、鹿児島市北部一帯、志布志郊外の三ケ所に集中する。石坂式に比較して大隅半島の北部に密集し、宮崎県に入いって、都城市横市、宮崎市跡江、同無田上などへの広がりをみる。現在までの分布状況はやゝ東北部に向いて広がりをみせ、宮崎県の3ケ所をふくめて、21ケ所を数える。

前平式土器の分布

石坂、吉田式土器の分布と同じ範囲に分布しているが、薩南と、志布志周辺に密集している。石坂、吉田式に比較して、やゝ分布の範囲が狭く感ぜられるが、それでも重複する遺跡が多い。薩南と志布志周辺に集中して存在する前平式土器は、石坂、吉田式同様南九州の極少地域に発達した特殊な円筒土器と考えることができる。

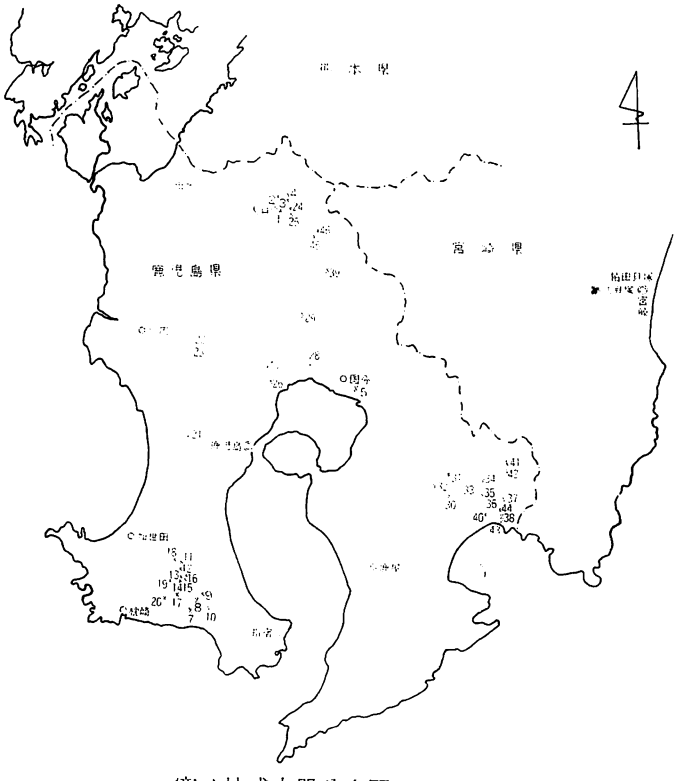
塞ノ神式土器の分布

石坂、吉田、前平式土器と異なり、口縁部が外反する特徴をもつ塞ノ神式土器は、ほぼ鹿児島県の全域に広がり、更に北部九州一帯にまでその分布をみる。分布の濃密な一帯は南薩・北薩と、大隅東部であるが、こ



鹿児島県円筒土器分布図

△石坂式・○吉式田
×前平式



塞ノ神式土器分布図

れらの地帯が、石坂、吉田、前平式土器の分布と同じであることは注目すべきである。最近の知見から前三者土器と塞ノ神式との層位がしめす如く、塞ノ神式が円筒土器に後続で発達したことを物語るものであろうか。

各土器の地名表

石坂式土器地名表

遺跡名	所在地	共伴遺物
1、山下遺跡	枕崎市別府町下山	土器片（貝殻条痕土器）
2、石坂上遺跡	川辺郡知覧町永里	押型文土器
3、提之原　〃	〃　〃	
4、楠木野　〃	姶良郡姶良町木津志楠木野	
5、楠ケ宇都　〃	〃　蒲生町木津志楠ケ宇都	貝殻条痕土器
6、北園崩九　〃	〃　横川町上野北園崩丸	
7、大原　〃	鹿児島郡吉田町大原	
8、高吉　〃	指宿郡頴娃町上別府高吉	
9、折尾　〃	〃　〃　〃　折尾	押型文土器
10、飯伏　〃	〃　〃　〃　飯伏	
11、新牧　〃	〃　〃　〃　新牧	
12、雪丸　〃	〃　〃　〃　雪丸	
13、瀬世　〃	川辺郡知覧町瀬世下	
14、二ツ谷　〃	〃　〃　東別府二ツ谷	
15、大越Ｂ　〃	曽於郡志布志町田之浦大越	
16、倉園Ａ　〃	〃　〃　内之倉倉園	
17、浜場　〃	〃　〃　〃　浜場	
18、鳥井下　〃	〃　〃　安楽鳥井下	
19、東黒土田　〃	〃　〃　〃東黒土田	
20、平原　〃	〃　〃　平原	

吉田式土器地名表

遺跡名	所在地	共伴遺物
1、上ノ原遺跡	鹿児島市山田上ノ原農場	石斧
2、大原　〃	鹿児島郡吉田町大原	
3、飯伏　〃	指宿郡頴娃町上別府飯伏	
4、源川　〃	〃　〃　〃　源川	
5、雪丸　〃	〃　〃　〃　雪丸	
6、淵別府　〃	〃　〃　牧ノ内淵別府	
7、西ノ妻　〃	姶良郡姶良町西餅田西ノ妻	土器

8、楯木野　〃　〃　〃　木津志楯木野
9、馬場迫　〃　〃　栗野町米永馬場迫
10、二日野　〃　曽於郡松山町新橋二日野
11、麦生田　〃　姶良郡栗野町麦生田
12、石ノ本遺跡　姶良郡栗野町石ノ本　押型文
13、上佐無田　〃　〃　〃　上佐無田　撚糸文、曽畑式、押型文、轟式
14、大越　〃　曽於郡志布志町田之浦大越
15、倉園A　〃　〃　〃　内之倉倉園
16、浜場　〃　〃　〃　〃　浜場
17、樽野口　〃　〃　〃　〃　樽野口
18、倉野　〃　〃　〃　倉野

前平式土器地名表

遺跡名	所在地	共伴遺物
1、前半遺跡	鹿児島市吉野町雀ケ宮前平	
2、南州神社	〃　上竜尾町南州神社	石匙・石鏃
3、丸岡遺跡	指宿郡頴娃町上別府丸岡	押型文
4、永野　〃	川辺郡知覧町永里永野	
5、流谷　〃	〃　〃　浮辺流谷	押型文
6、二ツ谷　〃	〃　〃　東別府二ツ谷	曽畑式
7、鍋倉　〃	日置郡伊集院町清藤鍋倉	角筒土器
8、二日野　〃	曽於郡松山町新橋二日野	
9、大水掘　〃	姶良郡栗野町大水掘	曽畑式
10、大越　〃	曽於郡志布志町田之浦大越	
11、倉園A　〃	〃　〃　内之倉倉園	
12、鎌石橋　〃	〃　〃　〃　鎌石橋	
13、倉野	〃　〃　倉野	

塞ノ神式土器地名表

遺跡名	所在地	共伴遺物
1、提原遺跡	大口市羽月下殿提原	押型文
2、日勝山　〃	〃　山野小木原日勝山	曽畑式
3、木崎原　〃	〃　大口牛尾木崎原	轟式
4、牛尾小学校	〃　〃　牛尾小学校	
5、平栫遺跡	国分市上井２０１	平栫式
6、新城出口遺跡	西之表市上原新城出口	
7、耳原　〃	指宿郡頴娃町別府耳原	

8、高吉　〃　　〃　〃　上別府高吉国造岡
9、丸岡　〃　　〃　〃　〃　源川丸岡
10、淵別府　〃　　〃　〃　牧ノ内淵別府
11、厚地　〃　　川辺郡知覧町厚地
12、石坂上遺跡　　川辺郡知覧町永里石坂上
13、和田前　〃　　〃　〃　〃　和田前　　押型文
14、穴ン原　〃　　〃　〃　〃　横井場穴ン原
15、樋与上　〃　　〃　〃　〃　樋与原
16、提之原　〃　　〃　〃　〃　提之原　　曽畑式
17、西垂水　〃　　〃　〃　西天西垂水向江
18、浴谷　〃　　〃　〃　浮辺流谷　　押型文
19、瀬世　〃　　〃　〃　瀬世下ヤセダン下
20、登立　〃　　〃　〃　塩屋大隣登立
21、立元　〃　　日置郡松元町直木立元4964山迫
22、丸岡　〃　　薩摩郡入来町浦三名476 の2
23、八重山　〃　　〃　〃　〃　八重山中腹
24、塞ノ神〃　　伊佐郡菱苅町下市山塞ノ神
25、白坂　〃　　〃　〃　田中白坂悪火さあ南　　轟式、曽畑式土器
26、轟谷　〃　　鍋良郡姶良町重富鍋谷
27、広木　〃　　〃　浦生町　広木
28、麦生田　〃　　〃　溝辺町有川麦生田
29、北園崩丸〃　　〃　横川町上野北園崩丸
30、久保崎陣　〃　　曽於郡大隅町久保崎　　轟Ｂ式
31、別府　〃　　〃　〃　岩川別府
32、飯田加〃　　〃　〃　月野西飯田
33、公会堂上　〃　　〃　松山町公会堂上
34、内ノ野　〃　　〃　〃　内野
35、大迫〃　　〃　志布志町安楽大迫
36、道重　〃　　〃　〃　森山道重　　押型文
37、出口　〃　　〃　〃　潤野出口　　轟式
38、山ノ上　〃　　〃　〃　帳8264
39、大水掘〃　　姶良郡栗野町大水掘　　曽畑式
40、東黒土田　〃　　曽於郡志布町安楽東黒土田　　轟式・平栫式
41、倉野　〃　　〃　〃　倉野
42、井手平〃　　〃　〃　井手平　　平栫式
43、上園〃　　〃　〃　夏井上園

44、坂ノ上　〃　　〃　　〃　坂ノ上
45、越水〃　　姶良郡吉松町永山越水
46、境谷　〃　　〃　　〃　〃　境谷

(4)　円筒貝殻文土器の諸問題

1)　円筒貝殻文土器のバリエーション

円筒貝殻文土器は石坂式土器、吉田式土器、前平式土器、塞ノ神式土器(平栫式土器も含む)の4つに分類されている。そしてその分類の基本として、石坂式土器の口縁外反・器壁の肥厚・綾杉状の施文、吉田式土器の外反・押し引き文、前平式土器の粗雑的な焼成・調整・貝殻条痕・直口的な円筒土器、塞ノ神式土器のラッパ状口縁に分けられるが、同じ形式にも形態文様に若干の変化をみることができる。

更に石坂式土器の特徴は、全面刺突文や若干の外反、口縁肥厚のない土器。吉田式は横行条痕、くさび状の貼り付け文。前平式は口唇部の違い、厚手、薄手、文様のつけ方。塞ノ神式の文様、山形口縁など円筒形の土器に基本的な変化がみられる。これらのバリエーションから土器の前後関係を設定できると考える。

2)　その他の円筒土器

姶良郡栗野町花ノ木遺跡[18]で出土した円筒土器は口縁部に貝殻腹縁で2段に波状文を施しているだけの土器と、器面外側に貝殻腹縁の強い文様を全体に施す土器が出土している。前者は口縁部がやや外反し、内外面ともなで調整を行っている。後者は貝殻腹縁を斜状に組み合せている土器であり、内面はなで調整で焼成も良い。

口縁部に2段の貝殻波状文を施している土器は熊本県の久保遺跡で多量に出土している。器形、文様からみて同じ文化の土器であろう。

以上の様に熊本県に出土している円筒土器[19]と同系が鹿児島北部に出土しており中、南九州の文化交流が円筒土器においてもあった事がわかる。

出水市の牟田尻遺跡[20]においては山形押型文の円筒土器が出土している。若干大きい押型文であるが、この例は出水貝塚出土の土器があり北薩中心に出土している。これらは手向山式土器等との関連を考えねばならないが、資料が少いため今後の発見に期待せねばならない。

3)　円筒貝殻文土器の時期と編年

円筒土器において器形的に見ると、石坂式土器は山形・外反・肥厚、吉田式土器は若干外反・肥厚し、前平式は直行および底部より直線的に若干外反、塞ノ神式土器はラッパ状に大きく外反・頸部にくびれあり、（また円筒状のものもある。河口氏分類B－d）上げ底を呈する。

文様的には石坂式土器の綾杉・刺突状の地文・文様の口縁に集中。吉田式土器の口縁端部の貝殻刺突・口縁部の刺突文・押し引きおよび刺突の地文、前平式土器の貝殻条痕の地文、塞ノ神式土器の沈線・撚糸文・貝殻文等特徴的なものがある。

外反する土器は石坂式、吉田式、塞ノ神式（平栫式も含む）の3つがある。そして前平式は外反しない。焼成的にも前平式土器は雑である。吉田式土器、石坂式土器の調整度は吉田式土器が良く

きれいななで調整を行っている。前平式土器は箆削り仕上げの状態で焼成されている。また吉田式は文様がこみいり、貼り付け状のものが多くつかわれでいる。塞ノ神式土器は一部調整、焼成も良いものがあるが半分は雑につくられていることが多い。よって編年としては直行・粗雑型の前平式土器。精整・外反型の吉田式土器。外反・山形・肥厚型の石坂式土器。円筒・くびれの強い外反・そして文様多様化の塞ノ神式土器と続くと思われる。すなわち器形的には直行から外反、肥厚、山形と変化し文様も口縁端部から頸部へと変化すると考えられるからである。

南九州の地層は火山灰台地のため分けやすい。しかしこの火山灰は場所により若干の変化がある南九州の火山は南から鬼界カルデラ、阿多カルデラ、姶良カルデラ、加久藤カルデラと4つのカルデラからなる。鬼界カルデラからはアカホヤ層という地層を形成し、姶良カルデラからはシラス層を形成している。アカホヤ層は約6000〜6400年（幸屋火砕流）とシラス層は16000〜22000年（入戸火砕流）前という地質年代がでている。

一般に耕作土（1層）、黒色火山灰層（2層）、黄褐色火山灰層（3層）、赤褐色軽石層（4層灰褐色火山灰（5層）、黒褐色火山灰層（6層）、黄褐色軽石層（7層）、暗褐色粘土質火山灰層（8層）そしてシラス層（橙色、桃色、白色の順）となっている。アカホヤ層は3層にあたり、下部は粘質を含む。指宿市の幸屋では間に腐食土層があり上部アカホヤ、下部アカホヤと分けられている。

栗野町花ノ木遺跡では塞ノ神式土器が5層上部に出土している。地質の年代から6000年以前の文化と考えられる。

円筒貝殻文土器の時期は塞ノ神式土器と地質年代からみて6000年以前の文化である。その中でも最も新しいと思われる塞ノ神式土器は縄文前期初頭に位置づけられよう。そして器形、文様等からみて塞ノ神式土器より古い土器（石坂式、吉田式、前平式）は早期にあたると考えられる。

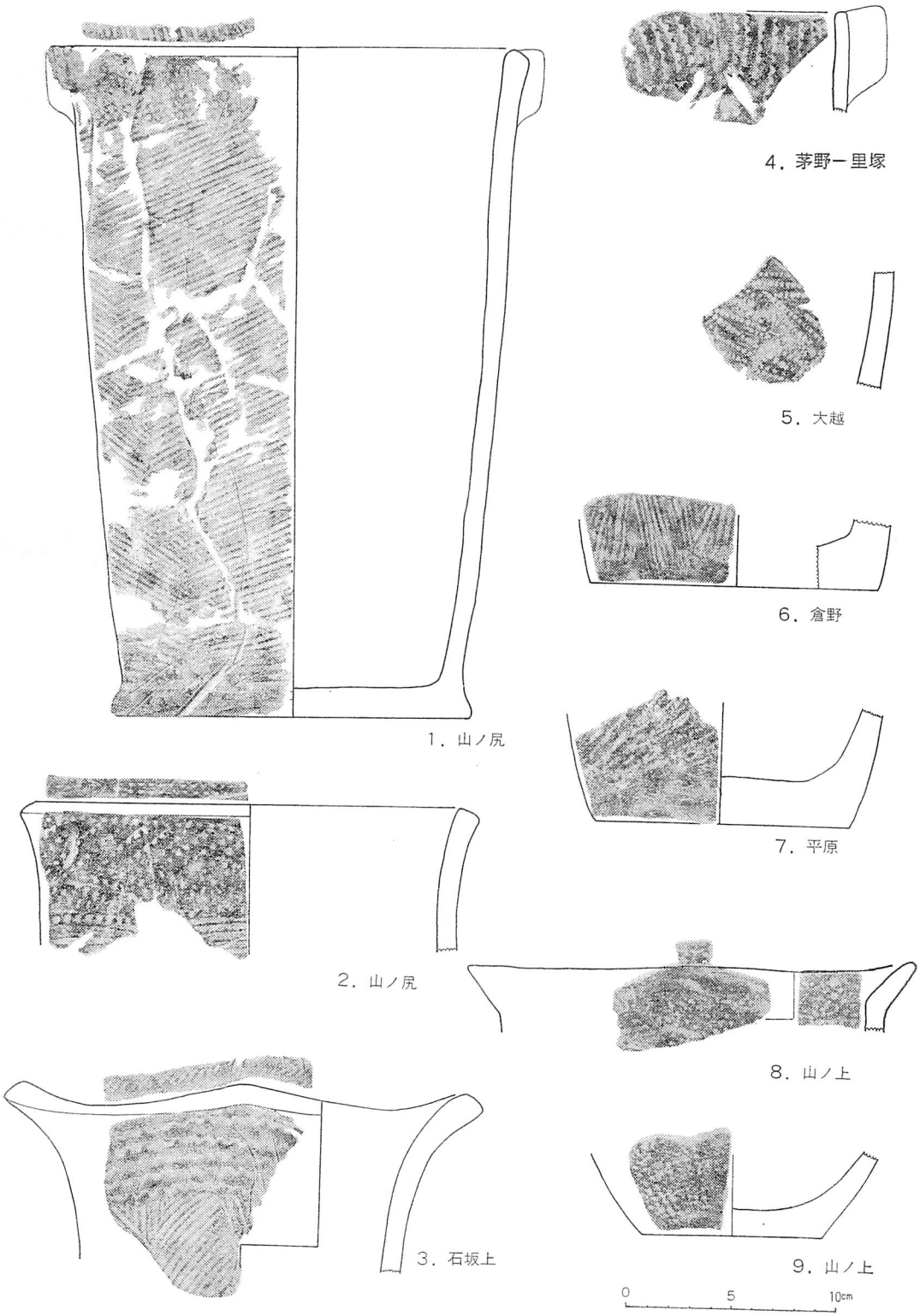
現在の編年は石坂式土器（早期）吉田式土器（前期）前平式土器（前期）塞ノ神式土器（前期）となっているが、石坂式土器、吉田式土器、前平式土器は前述のごとく器形、施文等からみて前平式が最も古く、吉田式土器、石坂式土器と考えられる。すなわち、前平式→吉田式→石坂式→塞ノ神式と円筒貝殻文土器は編年されよう。

他に問題になるのは押型文系文化と轟系文化の共伴関係である。塞ノ神式土器は押型文土器との共伴例は県内でも多い。石坂上遺跡がそれである。押型文の円筒土器は出水貝塚、牟田尻遺跡だけであるが今後さらに増すであろう。円筒土器に押型文・縄文土器が発見されている事からも押型文の影響は塞ノ神文化以前にさかのぼると思われる。よって円筒貝殻文文化のどの時期から押型文が流入したかは今後の問題となろう。

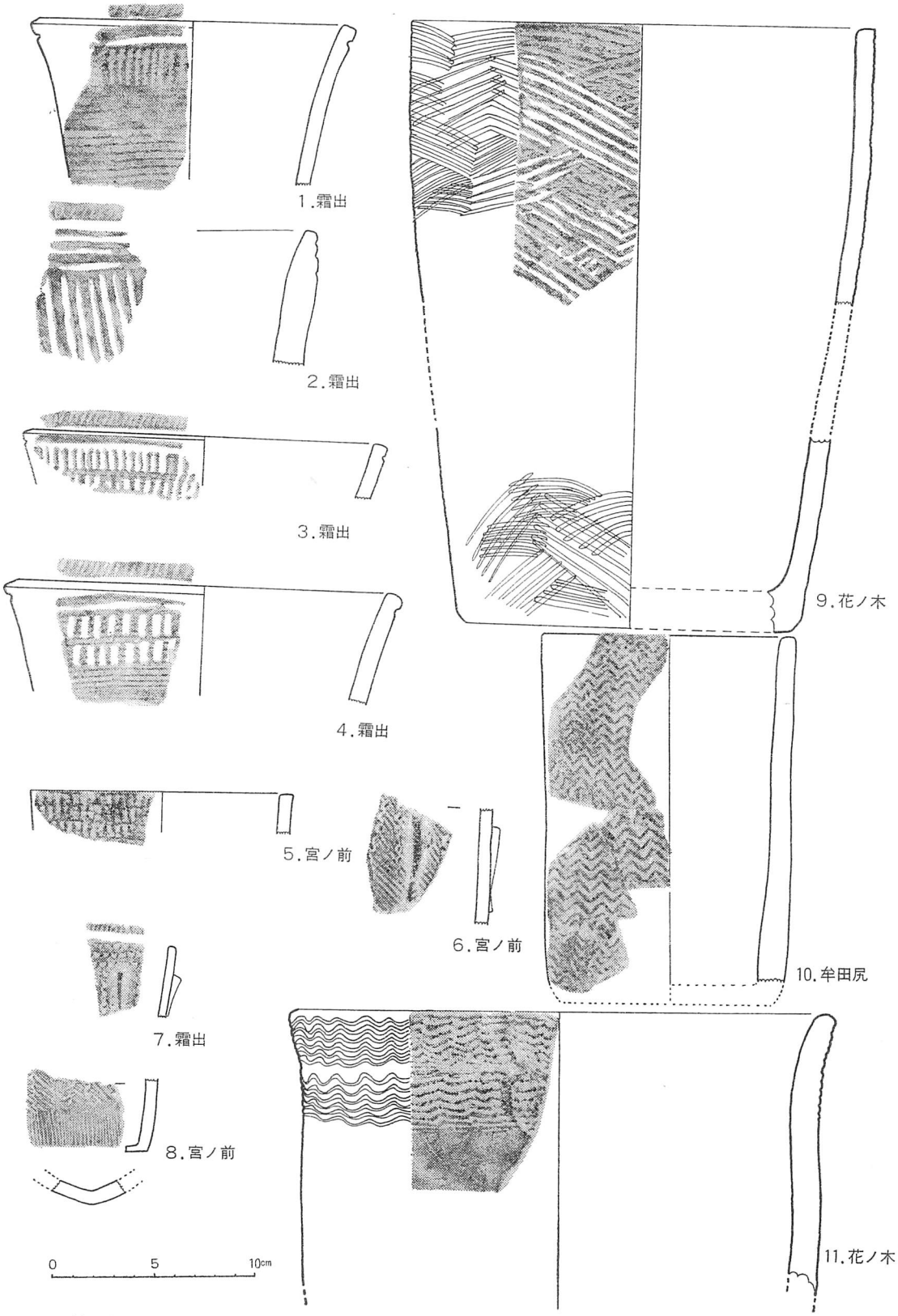
以上円筒貝殻文土器を述べてきたが資料不足のため問題提起としてとどめる。

最後に川辺信夫氏、瀬戸口望氏、酒匂義明氏、新東晃一氏、青崎和憲氏の資料提供や御教示そして鹿児島大学石川秀男教授の地質関係の御教示があったことを銘記し、お礼を申し上げたい。

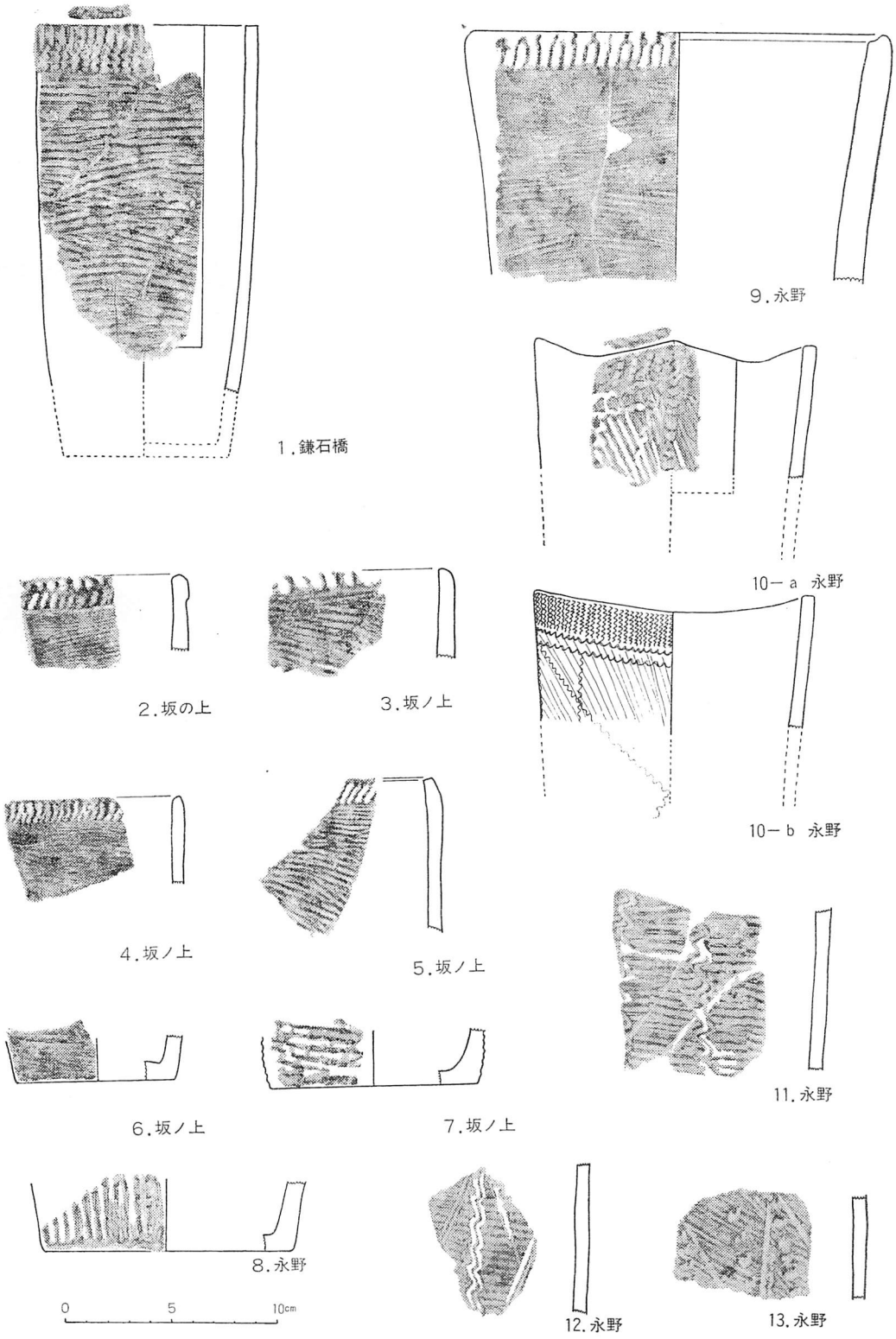
1977年　1月



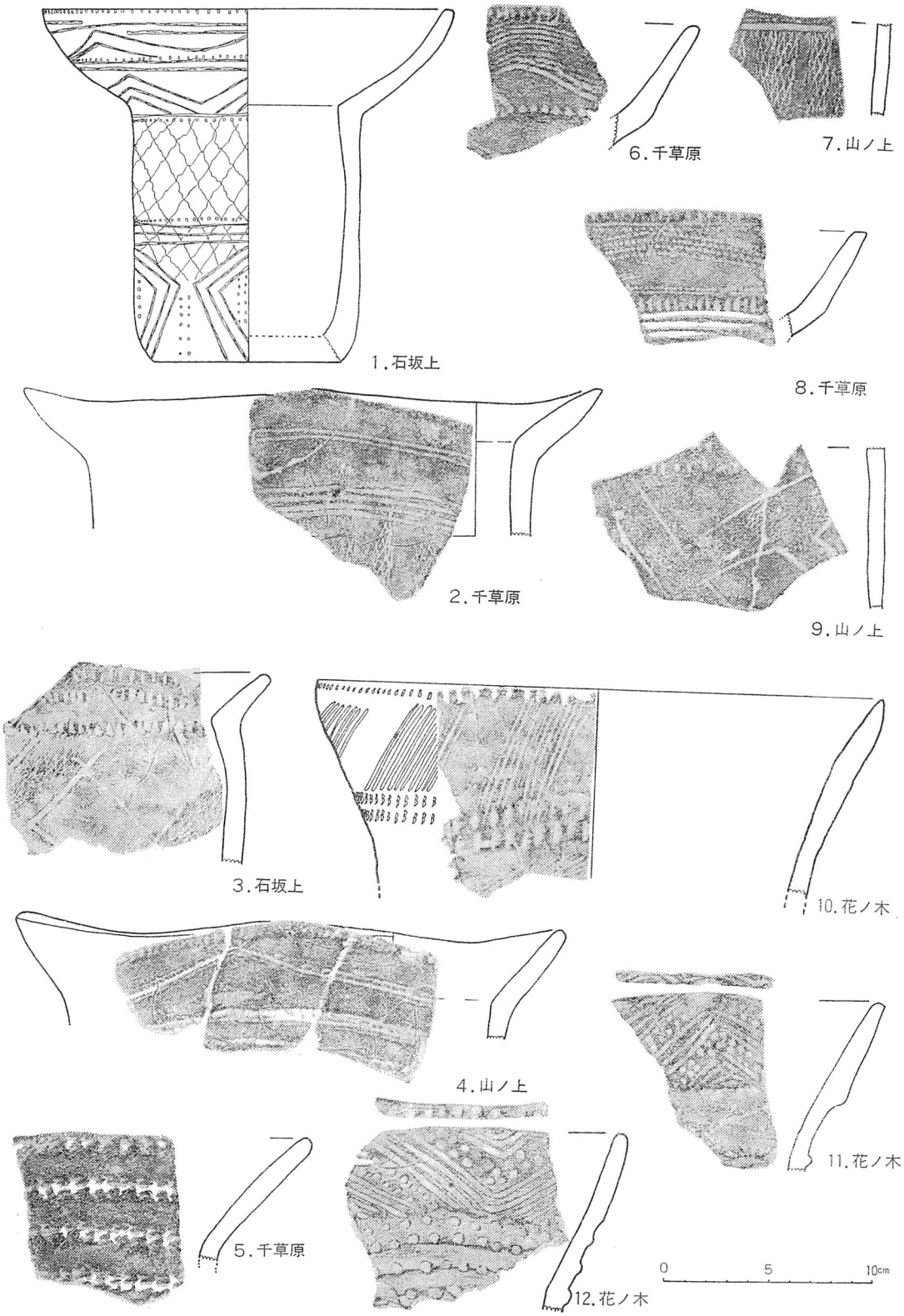
第1図　石坂式土器



第2図　吉田式土器（1～8）その他の円筒土器（9～11）


1．鎌石橋
9．永野
10－a 永野
2．坂の上
3．坂ノ上
10－b 永野
4．坂ノ上
5．坂ノ上
11．永野
6．坂ノ上
7．坂ノ上
8．永野
0
5
10cm
12．永野
13．永野

第3図　前平式土器


1.石坂上
2.千草原
3.石坂上
4.山ノ上
5.千草原
6.千草原
7.山ノ上
8.千草原
9.山ノ上
10.花ノ木
11.花ノ木
12.花ノ木
0
5
10cm

第4図　塞ノ神式土器

引 用 文 献

1. 寺師見国　南九州の縄文土器　昭和29年
2. 賀川光夫　日本の考古学　縄文時代　「九州東南部」　昭和40年　河出書房
3. 乙益重隆　日本の考古学　縄文時代　「九州西北部」　昭和40年　河出書房
4. 河口貞徳　石坂上遺跡　日本考古学年報　昭和28年　日本考古学協会
5. 河口貞徳　諏訪昭千代　酒匂義明　山ノ上遺跡発掘報告　鹿児島考古5号　昭和46年　鹿児島県考古学会
6. 河口貞徳　塞ノ神式土器　鹿児島考古6号　昭和47年　鹿児島考古学会
7. 鹿児島県教育委員会　花ノ木遺跡　鹿児島県文化財報告書1　昭和51年
8. 6に同じ
9. 河口貞徳　大原遺跡　日本考古学年報　昭和28年　日本考古学協会
10. 重盛重二　東　才二　吉田村先史時代遺跡について　鹿児島県考古学会紀要3号　昭和28年
11. 9に同じ
12. 5に同じ
13. 6に同じ
14. 4に同じ
15. 河口貞徳　鹿児島市史
16. 1に同じ
17. 6に同じ
18. 7に同じ
19. 熊本県教育委員会　久保遺跡　熊本県文化財報告書18　昭和50年
20. 鹿児島県教育委員会　牟田尻遺跡　鹿児島県文化財報告書2　昭和51年
21. 鹿児島大学教育学部教授の御教示と、火山学会の火山第2集第18巻3号のアカホヤについて昭和48年12月1日（宇井忠英氏の幸屋火砕流について）の論文を引用。
池田シラスは4000年、入戸火砕流は22000年で、幸屋火砕流は6000～6400年がみられる。